



丹治嘉彦展

回想をひらく2 ~archive~

Yoshihiko Tanji Exhibition : Unfolding Memories 2 —Archive

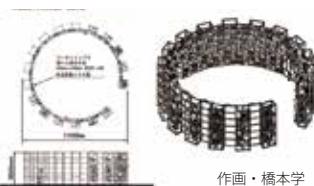
アートの持つ想像力を活かし、地域と協働しながら多くのアートプロジェクトを実践してきました。

本展は、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」に参加した際の作品模型やスケッチ、
そして地域とのコミュニケーションの記録を披露するものとなります。—丹治嘉彦



新潟大学
旭町学術資料展示館
Niigata University Asahimachi Museum

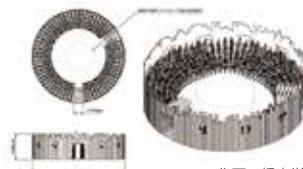
2026
1/31 (土) Sat ▶ 4/11 (土) Sat



作画・橋本学



作画・橋本学



作画・橋本学



右／《回想をひらく》「アートクロッシングにいがた 2025」新潟市西区内野 大島倉庫 左上／「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2022」アイディアスケッチ
左中／同マケット模型 左下／「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2024」アイディアスケッチ

ともに語り、ともに作り、 ともにすること。

私自身、制作において「どこでどんな表現を行なうのか」を最も重視しています。具体的には、そこに住む人々の歴史や生活に耳を傾け、そこに光を当てながら表現行為を実践し、それの本質を可視化しました。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」では、2005年から十日町市小脇集落の方々と共に、旧仙田小学校小脇分校跡地にて様々な「こと」や「もの」を展開し、

現在に至っています。また、2001年から大学と地域とで始めた「うちのDEアート」では、地域の方々と意見交換を行い、その成果を街に表しました。

それぞれダイナミックに展開しましたが、いざれも「もの」としてではなく、場が変容していく様として捉えたいと考えました。もちろん、表現そのものが筆頭にあることに間違はないのですが、そのプロセスを何よりも重視して、表現や教育の新たな扉を開くことの意味を問い合わせました。

今回、新潟大学旭町学術資料展示館における展示では、それらのプロジェクトの報告とアーカイブを兼ねた形態となるよう試みました。



丹治 嘉彦 Yoshihiko Tanji

略歴

新潟大学人文社会科学系 教授／新潟大学旭町学術資料展示館 前館長

担当学部 教育学部美術科

研究分野 現代美術

研究活動は、アートプロジェクトの実践、特に地域や病院等の各施設でのワークショップ。

特に場における「関り合い」を重視した実践を数多く展開している。

主な展覧会は大地の芸術祭、水と土の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、うちの DE アート、

新潟市民病院プロジェクト、その他多数のアートプロジェクトに参加。

 **新潟大学
旭町学術資料展示館**
Niigata University Asahimachi Museum

〒951-8122 新潟市中央区旭町通2番町746 TEL.025-227-2260
2-746 Asahimachi-dori Chuo-ku Niigata

開館時間：10:00～12:00, 13:00～16:30

休館日：日・月曜日

入館料：無料 駐車場：5台

Hours: 10:00am-12:00pm, 1:00pm-4:30pm

Closed:Sundays and Mondays / Admission free

真の強さを学ぶ。
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY



<https://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/>



リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。